

高松市美術館

所在地：香川県高松市紺屋町10-4

設 置：高松市

運 営：高松市教育委員会



■館の概要

回遊式庭園で名高い栗林公園内にあった高松市美術館の老朽化にともない、1988年に市内の中心部に新築・開館した。戦後日本の現代美術（油彩、彫刻）、20世紀以降の世界の美術（版画）および香川の美術（漆工・金工）を柱に収集している。所蔵品は約1,100点。企画展を年に6回程度行っているほか、市中心部にある立地をいかして、各種の実技講座の開設、講堂や市民ギャラリーでの催し物などを行っている。また、館内には美術図書やビデオライブラリーがあり、約2万冊の蔵書を有する。

■情報システムの概要

1. 美術情報提供システム（展示・映像系システム）

高松市美術館の情報のみならず全国の美術館の情報を来館者や高松地域の市民に提供する美術情報センター機能を果たすことを目的に、1991年2月にNTTに委託してシステムを構築した。同システムは、第3次高松市総合計画の「芸術・文化活動の推進」のなかで「芸術・文化情報の提供」を具体化する事業の一環として位置づけられている。

システムの概要は図に示したとおり。美術愛好家に関心を寄せる公立・私立の著名美術館86館に毎年3月、年間展覧会情報の提供を依頼し、文書により回答された情報と高松市美術館の年間展覧会情報や施設案内を館の担当者がパソコンにより入力する。その情報を美術館エントランスホールおよび市役所に設置されたキャプテン端末を用いて利用者がアクセスする。機器はリースで調達し、現在は再リースの期間である。

キャプテンを用いた類似のシステムが全国の美術館に普及しておれば、電話回線によるデータ収集が可能になり、利用者は希望館の情報をリアルタイムに入手できるが、他館においては異なったシステム等に情報提供をしているため、高松市美術館だけのシステムとして手作業による情報の収集・入力を続けており、事務量がかなりの負担となっているとのことである。

今後の取り組みとしては、全国美術館情報とは独立したシステムとして、1998年度に、内部的な収蔵品管理システム（収蔵品データベース）と来館者への美術映像情報提供シス

テムを兼ねたシステムの構築を予定している。

館担当者によれば、計画されているシステムでは、ハイビジョンを用いた画像情報と貸し出し履歴などを含む収蔵品管理情報を対象とし、学芸員の管理用には全ての収蔵品の情報を蓄積、来館者への展示用には点数を絞り込んだ画像情報を蓄積する。1997年度から著作権がクリアされたものから逐次データの入力を行う。現在は学芸員6名のうち2名がかかわっているが、1997年度には全員で基本データの作成にかかることにしている。また、将来的にはインターネットなどで情報を提供していくことも考えていきたいとの意向である。

2. 図書検索システム

1988年8月の開館時に図書検索システムを構築し、図書室に利用者用の端末を設置した。しかし、当時のOA機器能力等では入力に手間がかかったため、約2万冊の蔵書のうち500~1,000冊分の情報しか入力しておらず、現在はほとんど利用されていない状況であるとのこと。今後の対策としては、収蔵品データベースシステムに当システムを組み入れ、来館者への閲覧サービス向上に努めるとのこと。

3. その他のシステム

現在約1,600人の会員を有する友の会と来館者の管理用にパソコンを利用している。また、財務処理用としては市役所と接続された全庁的な内部処理端末が導入されている。

システム概略図

